

沖縄県における平成 26 年の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所

衛生科学班 上江洲由美子 大城聡子 寺田考紀 盛根信也

I はじめに

沖縄県における平成 26 年（2014 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 29 件、ヒメハブ咬症 7 件、サキシマハブ咬症 18 件、タイワンハブ咬症（疑い含む）0 件の計 54 件であった。これは過去 10 年間で最も少ない被害報告件数である（表-1, 図-1）。今年にはガラスヒバアやウミヘビ類等のハブ類以外の毒蛇による咬症事故は確認されず、ハブ咬症による死亡者の報告もなかった（表-2）。

最近 10 年間の傾向をみると、ハブ咬症は 30～60 件前後、サキシマハブ咬症は 20～30 件前後とほぼ横ばいで、ヒメハブ咬症も 10 件前後を推移している。タイワンハブは 2005 年、2006 年の他、2008 年～2013 年では 6 年連続で咬症被害が発生している。ハブ類 4 種の合計件数は 70～100 件前後であるが、100 件を超えたのは 2005 年と 2006 年のみである（表-1, 図-1）。

II 調査方法

沖縄県内で発生したハブ類咬症患者情報は、治療を施した医療機関から所管の保健所を通じ毎月薬務疾病対策課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される（はぶ抗毒素支

給規程（昭和 47 年 9 月 14 日告示 105 号）第 10 条）。さらに、その医療機関の協力によって「ハブ咬症患者調査票」（図-11）に基づき、咬症に関する詳細を患者から聞き取り、保健所を通じて衛生環境研究所に報告される。ハブ咬症患者調査票には記入漏れがある場合が多いため、直接咬症患者本人や病院に問い合わせることで内容を補完した。しかし連絡の取れない患者もあり、充分とはいえない。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキシマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。だが、このような蛇の種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブ咬症として集計した。

当該調査にあたっては咬症患者様及びその関係者の方々にはじまり、各医療機関の方々、ならびに各保健所職員には調査票の記入・報告等大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

III 調査結果

1. ハブ咬症

平成26年のハブ咬症件数は昨年より13件減少の29件だった(表-1)。市町村別の内訳は、名護市・久米島町の4件が最も多く、次いで八重瀬町の3件、今帰仁村・読谷村・沖縄市・糸満市・南城市・那覇市の各2件、うるま市・宜野湾市・豊見城市の各1件である。なお、国頭村・大宜見村・東村・本部町・伊江村・伊平屋村・宜野座村・恩納村・金武町・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村・西原町・浦添市・南風原町・与那原町・渡嘉敷村・渡名喜村の19市町村は0件だった。また、市町村不明のハブ咬症が3件あった(表-3の1、図-4)。

市町村合併で単純な比較はできないが、最近10年間の累計ではうるま市の他、糸満市、南城市及び八重瀬町を中心とする地域で咬症患者が多く発生している(表-4の1)。

2. ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は大宜味村・名護市で2件、国頭村・東村・本部町で各1件の計7件であった(表-3の2)。

なお、ヒメハブはハブより毒が弱いので、重症になることが少ない。ちなみに、これまでヒメハブ咬傷者の死亡記録はない。

3. サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、石垣市6件、竹富町7件、市町村不明5件の計18件だった(表-

3の3)。

サキシマハブもハブより毒が弱く、治療に際して血清を使わない事が多い。平成26年に血清を使用した患者はいなかった。

4. タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症の報告は無かった(表-3の4)。

5. 人口1000人あたりの受傷率

ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ・タイワンハブの4種の咬症患者の合計を市町村別に人口千人あたりの受傷件数(受傷率)で見ると、竹富町が1.74と最も高い。次いで、大宜見村0.63、東村0.57の順になり、人口千人あたり受傷率0.50以上の市町村が4町村あった(表-5、図-5、図-6)。

ハブ類咬症者のいなかった市町村を除くと、受傷率が最も低いのは那覇市の0.006で、これは人口約100万人に対しハブ類咬症者が約6名発生するという割合である。

6. 毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬傷時、咬まれた人がその蛇を目撃するのは全体のほぼ半数に満たない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中または夜間の暗がりの中で起こり、しかも咬んだ蛇の多くがすぐに逃げてしまうため確認できないからである。さらに、蛇を目撃した場合でも多くの人が種類を判別できない。

咬症患者が蛇の種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が1種類のみ八重山地方ではサキシマハブと判断できる。

沖縄本島とその周辺離島で蛇に咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高い。次いでヒメハブ、ガラスヒバアの可能性がある。

ガラスヒバアは毒蛇であるが、その毒は弱い上に明確な毒牙を持たないため、咬まれても毒が注入されることは稀であると考えられる。またカエルを主な餌とするので水辺に生息しており、ネズミを主な餌として生息域が人間の生活環境と交錯するハブとは異なり、人間との接触はかなり少ない。

アカマタは生息域がハブ類と共通である。攻撃的で、人間を咬むこともあるが、咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口がU字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛みの症状を伴わないことから無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの3種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名護市の一部とその周辺及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定着している¹⁾。特にここ数年、糸満市でサキシマハブの増加が確認されており、毎年数人の咬症患者が発生するようになった。タイワンハブも2008年以降毎年のように咬症患者が発生し

ているが、ハブの近縁種であるタイワンハブによる咬症はハブの抗毒素が有効であることが判明している²⁾。

タイコブラは1993年頃に捕獲された以外は20年近く目撃及び捕獲がないことから、定着している可能性は無いと考えられる。

7. 月別咬症発生件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える。

平成26年は、ハブ咬症は10月が8件で最も多く、次いで3月・9月に各5件、5月に3件、4月・6月・8月に各2件、2月・11月に各1件の順であった。ヒメハブ咬症は8月に2件、3月・6月・9月・10月・11月に各1件発生した。サキシマハブ咬症は4月・7月に各3件と最も多く、次いで6月・9月・11月に各2件、1月・3月・5月・8月・10月・12月に各1件発生した。タイワンハブ咬症の発生は無かった(表-6, 図-7)。

8. 保健所別咬症件数

ハブ属4種合計の保健所別届出数は、八重山保健所の18件が最も多く、次いで北部保健所の15件、南部保健所の14件、中部保健所の7件であった(表-7)。

9. 場所別の咬症発生件数

ハブ咬症の起こる場所は、例年畑が最も多

く全体の約4割を占めていたが、平成26年は庭などの屋敷内だけで約4割を占め、家屋内と合わせると約5割に上る。次いで道路で約2割、畑で約1割と続き、残りは山林、草地などで被害が発生している。

平成26年は、庭など屋敷内での咬症件数が13件(45%)を占めた。次いで道路の5件(17%)の他、畑4件(14%)、屋内、山林・草地が各3件(各10%)、その他1件(4%)となった。ヒメハブ咬症は、屋敷内で5件(71%)、山林・草地で2件(29%)であった。サキシマハブ咬症は、屋敷内、畑が各5件(各28%)と最も多く、次いで道路が4件(22%)、山林草地で2件(11%)、屋内、その他が各1件(各6%)だった。タイワンハブ咬症の報告は無かった。ハブ類4種の合計では屋敷内が23件(42%)で最も多く、次いで畑、道路で各9件(各17%)それ以外の合計が13件(24%)であった(表-8)。

屋敷内や畑など人の生活圏における咬症事例が多発しており、ハブの侵入を防ぐなどより一層の対策が必要である。

10. 時刻別咬症件数

ハブ類が夜行性であるにもかかわらず、ハブ類咬症は日中にも多くみられる。屋敷内庭での草刈りや農業従事者の労働時間など、日中に咬まれることが多いためである(表-9、表-10、図-8)。

道路での咬症は逆に暗い夜間や早朝が多い。夜行性であるハブ類は、道路のようなオ

ープンな場所に日中出现するのはきわめて稀で、ほとんどは、夜間に暗い路上を歩行中、ハブ類に気付かずに咬まれたものである。

屋敷内での咬症は昼夜の差はみられない。これは、夜間に侵入してきたハブ類に侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブ類に日中もしくは夜間に咬まれるためと推測される。

11. 咬症部位

ハブでは、上肢指・手・足各6件(各21%)、下腿5件(17%)、大腿2件(7%)、前腕・上腕・下肢指・頭部各1件(各3%)であった。ヒメハブは上肢指4件(57%)、手・下肢指・足各1件(各14%)であった。サキシマハブは、足6件(33%)、手4件(22%)、上肢指・下肢指各3件(各17%)、下腿・前腕各1件(各6%)であった(表-11、図-9)。

沖縄県での毒蛇咬症は、手足の先端に近い部分を咬まれることが多い。特にサキシマハブとヒメハブは体長が短いために攻撃距離が短く、咬症部位は身体の末端に限られ、頭部や胴体などを咬まれることはほとんどない。

12. 年代別、性別発生件数

4種類の合計で見ると、ハブ類咬症の多い年代は40代から70代である(図-10、表-12)。

咬症患者の性比は、男性38名、女性16名で男性が多い。

平成 26 年の咬症患者の最年少は 3 歳の幼児で、6 月 19 日 20 時 10 分頃、道路で右手を咬まれた。疼痛・腫脹があり、すぐに病院へ搬送され、はぶ抗毒素血清を 1 バイアル使用した。

最年長は 81 歳の女性で、8 月 5 日の 4 時 10 分頃、自宅で就寝中に左手を咬まれた。病院へ搬送された、はぶ抗毒素血清を 3 バイアル使用した。入院 6 日間、治療期間 2～3 ヶ月を要し、機能障害のためリハビリを実施した。

13. まとめ

沖縄県における平成 26 年（2014 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 29 件、ヒメハブ咬症 7 件、サキシマハブ咬症 18 件、タイワンハブ咬症 0 件の計 54 件であった。これは過去 10 年で最も少ない件数である。咬症件数は 2000 年以前と比較すると減少しているが、畑や屋敷全体という人の生活圏における咬症事例が多いことから、日頃の対策が重要である。

また、2016 年に報告は無かったが、近年は糸満市でのサキシマハブ咬症や、2005 年から報告されているタイワンハブ咬症という外来種による咬症が目立ってきている。その対策として平成 24 年度から「危険外来種咬症対策モデル事業」を実施しており、危険外来ハブ類の分布調査や高密度化及び拡散の仕組みを調査研究し、効果的な防除手法の確立を目指している。当該事業の詳細につい

ては別途報告する。

参考文献

- 1) 寺田考紀, 「沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策」, 爬虫両生類学会報, 2011 (2), 特集: 爬虫両生類における外来生物問題とその対策, 161-168
- 2) 野崎真敏・香村昂男・勝連盛輝, 「沖縄県へ移入されたヘビの毒素について」, 平成 6 年度抗毒素研究報告書, 8-15

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ			サキシマハブ			ヒメハブ	台湾ハブ	計	
	件数	死	受傷率	件数	死	受傷率(*)	件数	件数	件数	死
05	67	0	0.054	26	0	0.247	13	2	108	0
06	62	0	0.049	30	0	0.283	10	2	104	0
07	61	0	0.048	27	0	0.253	8	0	96	0
08	65	0	0.051	21	0	0.196	8	1	95	0
09	55	0	0.043	33	0	0.306	7	1	96	0
10	48	0	0.037	21	0	0.194	9	1	79	0
11	62	0	0.047	18	0	0.166	5	3	88	0
12	46	0	0.035	33	0	0.303	12	1	92	0
13	42	0	0.032	20	0	0.183	7	3	72	0
14	29	0	0.022	18	0	0.118	7	0	54	0
計	537	0	0.042	247	0	0.225	86	14	884	0

受傷率: 人口1000人あたり受傷件数

*沖縄県におけるサキシマハブ咬症件数/石垣市、竹富町、糸満市人口合計×1000

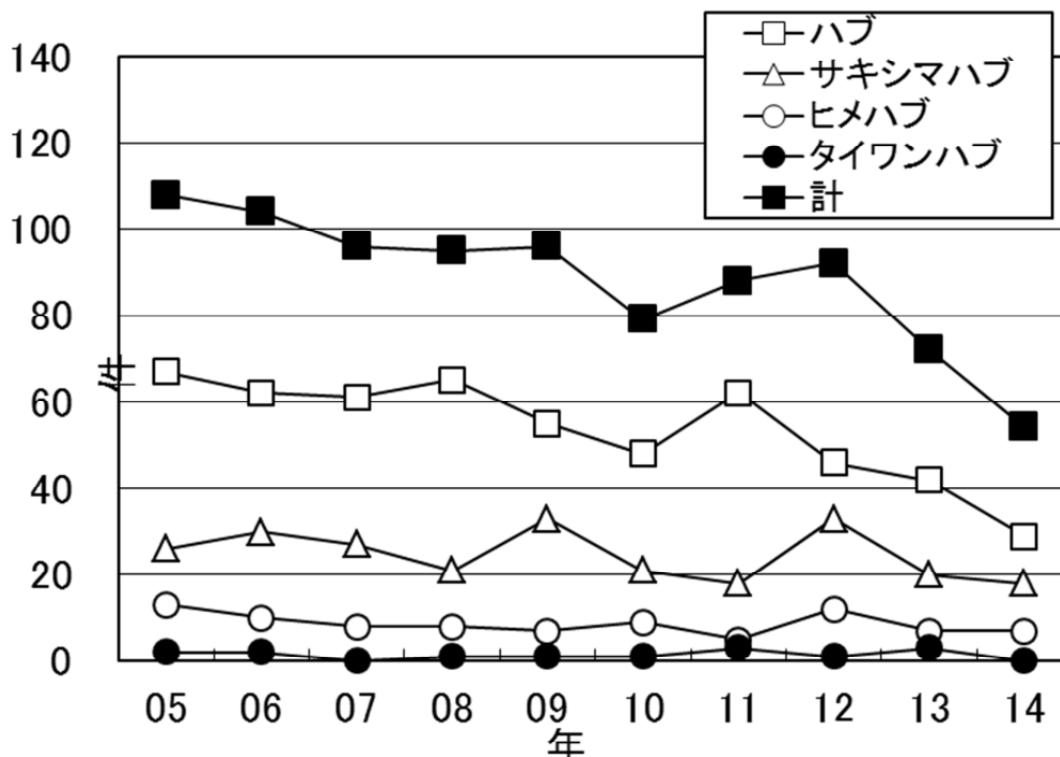


図-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

種年	ハブ	死亡 件数	サキシマ ハブ	死亡 件数	ヒメ ハブ	タイワン ハブ	ハブ類 咬症合計	ウミヘビ 類	コブラ	ガラス ヒバア
64	424	4					424			
65	350	7	85				435			
66	357	2	121		1		479			
67	389	5	160				549			
68	351	6	167		1		519			
69	323	4	150				473			
70	321	1	137				458			
71	326	2	111				437			
72	239	1	71				310			
73	374	6	36				410			
74	306		31				337			
75	299	3	60				359			
76	268		45				313			
77	292	2	37				329			
78	283	4	48				331		1	1
79	254		71	1			325			
80	226	1	56		1		283	1		
81	210		57				267			
82	183		80		7	1	271			
83	156		37		4		197			
84	188		47		3		238			
85	184		38		21	1	244			
86	180		31		14		225			
87	208		33		21		262			
88	174		39		17		230			
89	179	2	33		18		230	1		
90	157	1	42		15		214	2		
91	170		39		21		230			
92	86	1	37		28		151		1	
93	103		40		18		161			
94	100		44		15		159			
95	124		42		15		181			
96	104		25		8		137			
97	109		23		14		146			
98	93		28		18		139			
99	81	1	27		7		115			
00	82		36		17		135			
01	61		30		6		97			
02	61		32		9		102			
03	63		23		7		93			
04	43		22		3		68			
05	67		26		13	2	108			
06	62		30		10	2	104	2		
07	61		27		8		96			
08	65		21		8	1	95	1		
09	55		33		7	1	96			
10	48		21		9	1	79			
11	62		18		5	3	88			
12	46		33		12	1	92			
13	42		20		7	3	72			
14	29		18		7		54			
計	9018	53	2518	1	395	16	11947	7	2	1

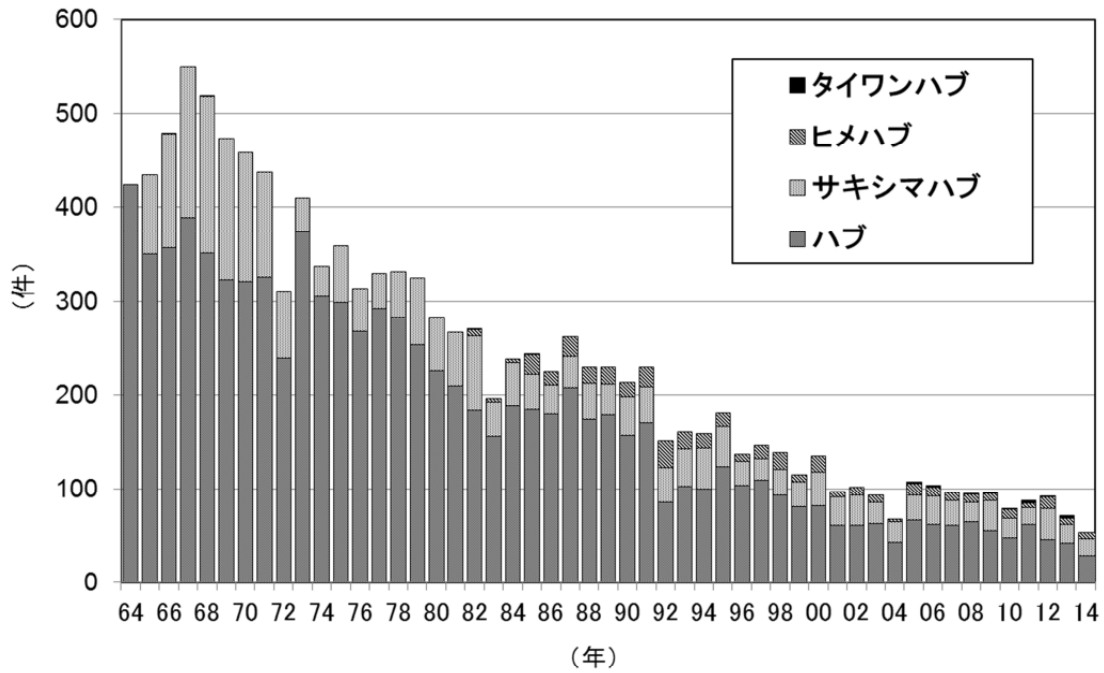


図-2 沖縄県のハブ類咬症の推移

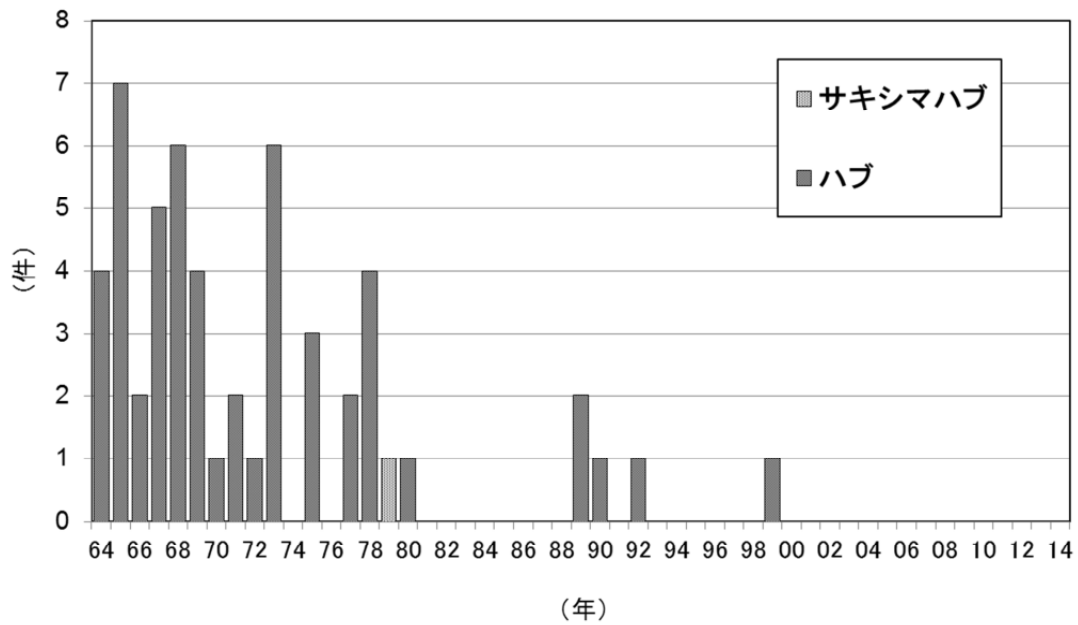


図-3 ハブ類咬症死亡件数の経年

表-3 2014年受傷市町村別月別毒ヘビ咬症件数

1. ハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村													0
大宜味村													0
東村													0
今帰仁村			1							1			2
本部町													0
名護市		1	1	2									4
伊江村													0
伊平屋村													0
宜野座村													0
恩納村													0
金武町													0
うるま市										1			1
読谷村										2			2
嘉手納町													0
北谷町													0
沖縄市			1					1					2
北中城村													0
宜野湾市									1				1
中城村													0
西原町													0
浦添市													0
豊見城市											1		1
糸満市									1	1			2
八重瀬町									1	2			3
南城市				1					1				2
南風原町													0
与那原町													0
渡嘉敷村													0
久米島町			1			1			1	1			4
渡名喜村													0
那覇市					1	1							2
不明			1		1			1					3
計	0	1	5	2	3	2	0	2	5	8	1	0	29

2. ヒメハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村								1					1
大宜味村			1					1					2
東村						1							1
本部町									1				1
名護市										1	1		2
計	0	0	1	0	0	1	0	2	1	1	1	0	7

3. サキシマハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
石垣市	1		1			1			2	1			6
竹富町				3		1	2				1		7
不明					1		1	1			1	1	5
計	1	0	1	3	1	2	3	1	2	1	2	1	18

4. タイワンハブ咬症 報告無し

表-4 最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数

1.ハブ咬症

年	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
国頭村		6	2	1	5	4	3	6	4		31
大宜味村		1		3	1		1				6
東村	1		1			1	1	1	1		6
今帰仁村	2	1	1	1	2		1	1	2	2	13
本部町	1	5		2		1	2				11
名護市	4		2	2	1	3	4	4	2	4	26
伊江村				2		2	1	2			7
伊平屋村				2			1	2	1		6
宜野座村	1	1	1	2	1			1	2		9
恩納村	1		1			1			1		4
金武町	1	1	1	2	2				1		8
うるま市	12	6	7	11	4	8	9	3	7	1	68
読谷村	5	2	3		2	2	3		3	2	22
嘉手納町			1								1
北谷町		1	2	1		1		1			6
沖縄市	4	3	3	1	6			2	2		21
北中城村	1			1		1					3
宜野湾市	2	2	2		1	1	3	1	2	1	15
中城村	1		1	4			5		1		12
西原町		1	2	3	2		1	2			11
浦添市	1	3	1			1					6
豊見城市	1		2				2			1	6
糸満市	6	2	2	7	8	9	7	7	3	2	53
八重瀬町											
東風平町★	1	9	8	1	7	2	3	3	3	3	43
具志頭村★	3										
南城市											
玉城村☆	3										
知念村☆	2	8	8	4	8	4	2	1	4	2	50
佐敷町☆	2										
大里村☆	2										
南風原町	2	2	2	2	1	1	4	1			15
与那原町	1										1
渡嘉敷村		1					1				2
久米島町	6	3	3	7	2	4	5	5	3	4	42
渡名喜村											0
那覇市	1	4	5	4	2	1	2	3		2	24
不明				2		1	1		2	3	9
計	67	62	61	65	55	48	62	46	42	29	537

2.ヒメハブ咬症

年	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
沖縄県	13	10	8	8	7	9	5	12	7	7	86

3.サキシマハブ咬症

年	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
石垣市	22	20	19	16	21	17	11	22	13	6	167
竹富町	2	7	4	5	7	4	6	10	4	7	56
沖縄本島	2	3	4	0	5	0	1	1	3		19
不明										5	5
計	26	30	27	21	33	21	18	33	20	18	247

4.タイワンハブ咬症

年	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
本部町									1		1
名護市	2	2			1	1	2	1	1		10
今帰仁村				1			1				2
(※)宜野座村									1		1
計	2	2	0	1	1	1	3	1	3	0	14

(※)タイワンハブ疑い例

5.ウミヘビ類咬症

年	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
不明		2		1							3

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため、2006年以降のデータはまとめています
 ☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市となったため、2006年以降のデータはまとめています

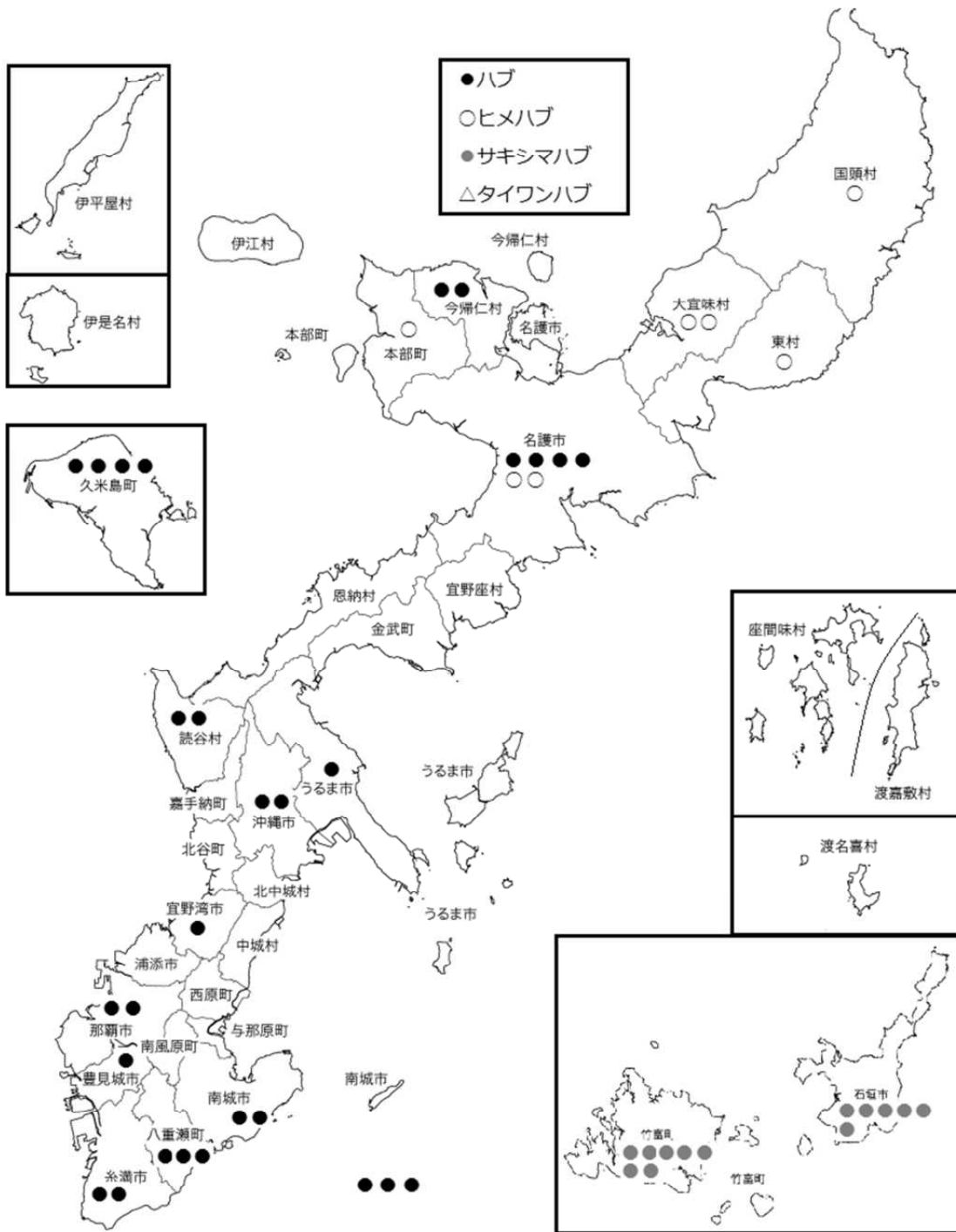
表-5 2014年 市町村別ハブ類受傷件数と人口千人当り受傷率

受傷場所 市町村	ハブ	ヒメ ハブ	サキシマ ハブ	タイワン ハブ	計
竹富町			7		7
名護市	4	2			6
石垣市			6		6
久米島町	4				4
八重瀬町	3				3
大宜味村		2			2
今帰仁村	2				2
読谷村	2				2
沖縄市	2				2
糸満市	2				2
南城市	2				2
那覇市	2				2
国頭村		1			1
東村		1			1
本部町		1			1
うるま市	1				1
宜野湾市	1				1
豊見城市	1				1
伊江村					0
伊平屋村					0
宜野座村					0
恩納村					0
金武町					0
嘉手納町					0
北谷町					0
北中城村					0
中城村					0
西原町					0
浦添市					0
南風原町					0
与那原町					0
渡嘉敷村					0
渡名喜村					0

受傷場所 市町村	受傷 件数	受傷率 (*)	人口(※) 2015年1月1日現在
竹富町	7	1.7456	4010
大宜味村	2	0.6378	3136
東村	1	0.5790	1727
久米島町	4	0.4933	8109
今帰仁村	2	0.2154	9284
国頭村	1	0.2070	4831
石垣市	6	0.1271	47197
八重瀬町	3	0.1049	28592
名護市	6	0.0976	61476
本部町	1	0.0735	13609
読谷村	2	0.0510	39237
南城市	2	0.0487	41040
糸満市	2	0.0341	58626
豊見城市	1	0.0164	61078
沖縄市	2	0.0150	133008
宜野湾市	1	0.0105	95163
うるま市	1	0.0084	119287
那覇市	2	0.0062	321186
伊江村	0	0.0000	4525
伊平屋村	0	0.0000	1315
宜野座村	0	0.0000	5593
恩納村	0	0.0000	10374
金武町	0	0.0000	11119
嘉手納町	0	0.0000	13648
北谷町	0	0.0000	28157
北中城村	0	0.0000	16492
中城村	0	0.0000	19393
西原町	0	0.0000	34865
浦添市	0	0.0000	112770
南風原町	0	0.0000	37280
与那原町	0	0.0000	18236
渡嘉敷村	0	0.0000	726
渡名喜村	0	0.0000	437

※市町村別人口は沖縄県企画部統計課
公表の「平成27年1月1日現在市町村別
推計人口データ」による

* 受傷率: 人口1000人あたり受傷件数

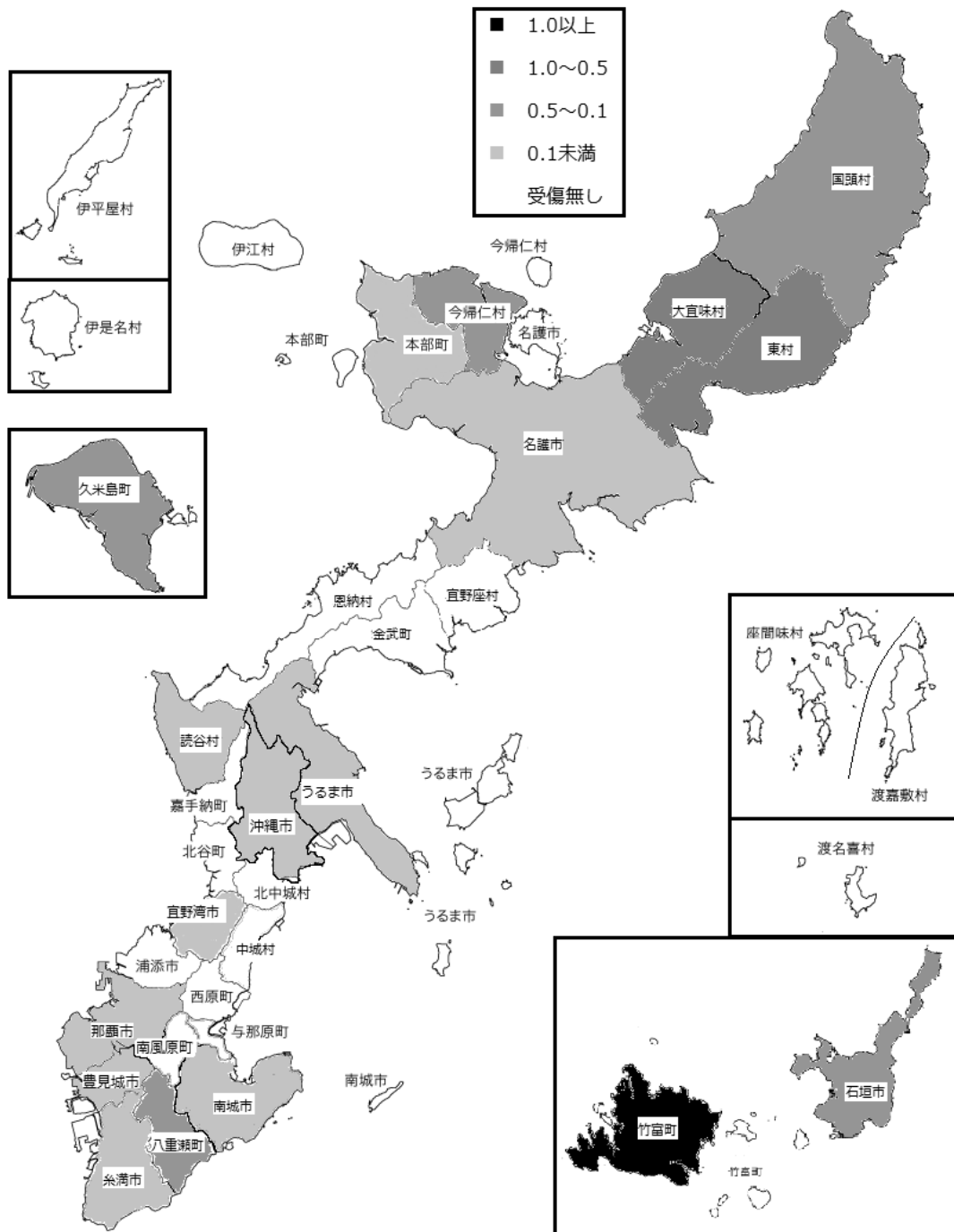


http://technocco.jp

 TECHNOCCO IMAGE FACTORY

この地図の作成に当っては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を使用した
 （承認番号 平22業使、第632号）

図-4 2014年市町村別ハブ類咬症件数



<http://technocco.jp> この地図の作成に当っては、国土地理院員の承認を得て、
テクノココ 同院発行の数値地図25000（地図画像）を使用した
 TECHNOCCO IMAGE FACTORY (承認番号 平22業使、第632号)

図-5 2014年市町村別人口千人当たりハブ類受傷率

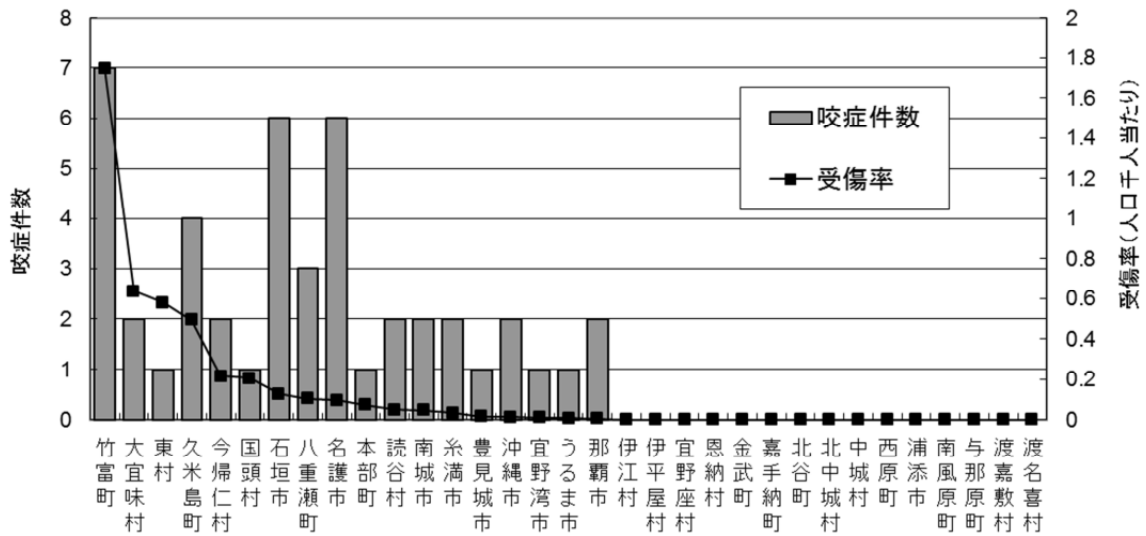


図-6 2014年市町村別ハブ類咬症件数と人口千人あたり受傷率

表-6 2014年月別ハブ類咬症件数

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ		1	5	2	3	2		2	5	8	1		29
ヒメハブ			1			1		2	1	1	1		7
サキシマハブ	1		1	3	1	2	3	1	2	1	2	1	18
台湾ハブ													0
計	1	1	7	5	4	5	3	5	8	10	4	1	54

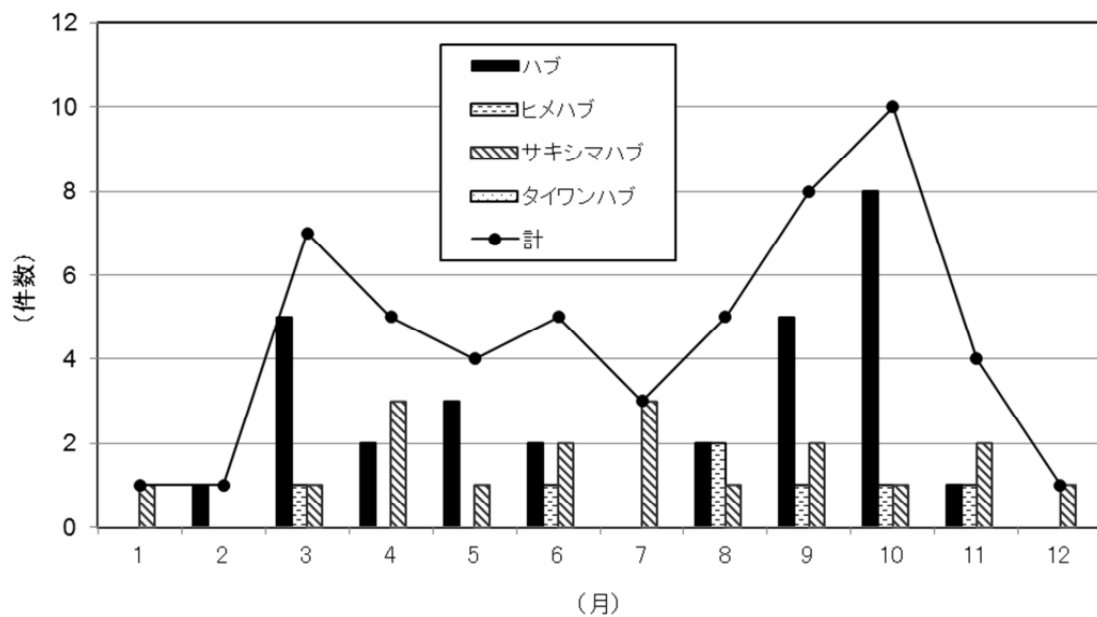


図-7 2014年月別ハブ類咬症件数

表-7 2014年 届出保健所別月別ハブ類咬症件数

保健所	種名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部	ハブ		1	2	2	1			1		1			8
	ヒメハブ			1			1		2	1	1	1		7
	計	0	1	3	2	1	1	0	3	1	2	1	0	15
中部	ハブ			1		1			1	1	3			7
	計	0	0	1	0	1	0	0	1	1	3	0	0	7
南部	ハブ			2		1	2			4	4	1		14
	計	0	0	2	0	1	2	0	0	4	4	1	0	14
八重山	サキシマハブ	1		1	3	1	2	3	1	2	1	2	1	18
	計	1	0	1	3	1	2	3	1	2	1	2	1	18

表-8 2014年 場所別咬症件数

場所	ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
屋内	3	0	1	0	4
屋敷内	13	5	5	0	23
畑	4	0	5	0	9
道路	5	0	4	0	9
山林草地	3	2	2	0	7
その他屋敷外	1	0	1	0	2
不明	0	0	0	0	0
計	29	7	18	0	54

表-9 2014年 被害者の行動別咬症件数

咬症時の行動		ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
屋内	就寝中	1	0	0	0	1
	用便中	2	0	0	0	2
	室内の他の動作	1	0	2	0	3
屋外	通行中	5	2	6	0	13
	キビ刈り中	0	0	2	0	2
	農作業中	3	0	1	0	4
	草刈り中	5	2	2	0	9
	ハブ扱い中	2	1	0	0	3
	屋外の他の動作	10	1	4	0	15
不明	0	1	1	0	2	
計	29	7	18	0	54	

表-10 2014年 場所及び時刻別ハブ類咬症件数(四種計)

場所\時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋内					1		1											1			1					4
屋敷	1	1			1		2	1	1		1			1			1	3	1	2	3	1	2		1	23
畑										1	2					2	1	1	1					1		9
道路	1								1												2	4	1			9
山林・草地					1		1			1		1		1				1						1		7
その他																				1	1					2
不明																										0
計	2	1	0	0	3	0	4	1	2	2	3	1	0	2	0	2	2	6	2	3	7	5	4	1	1	54

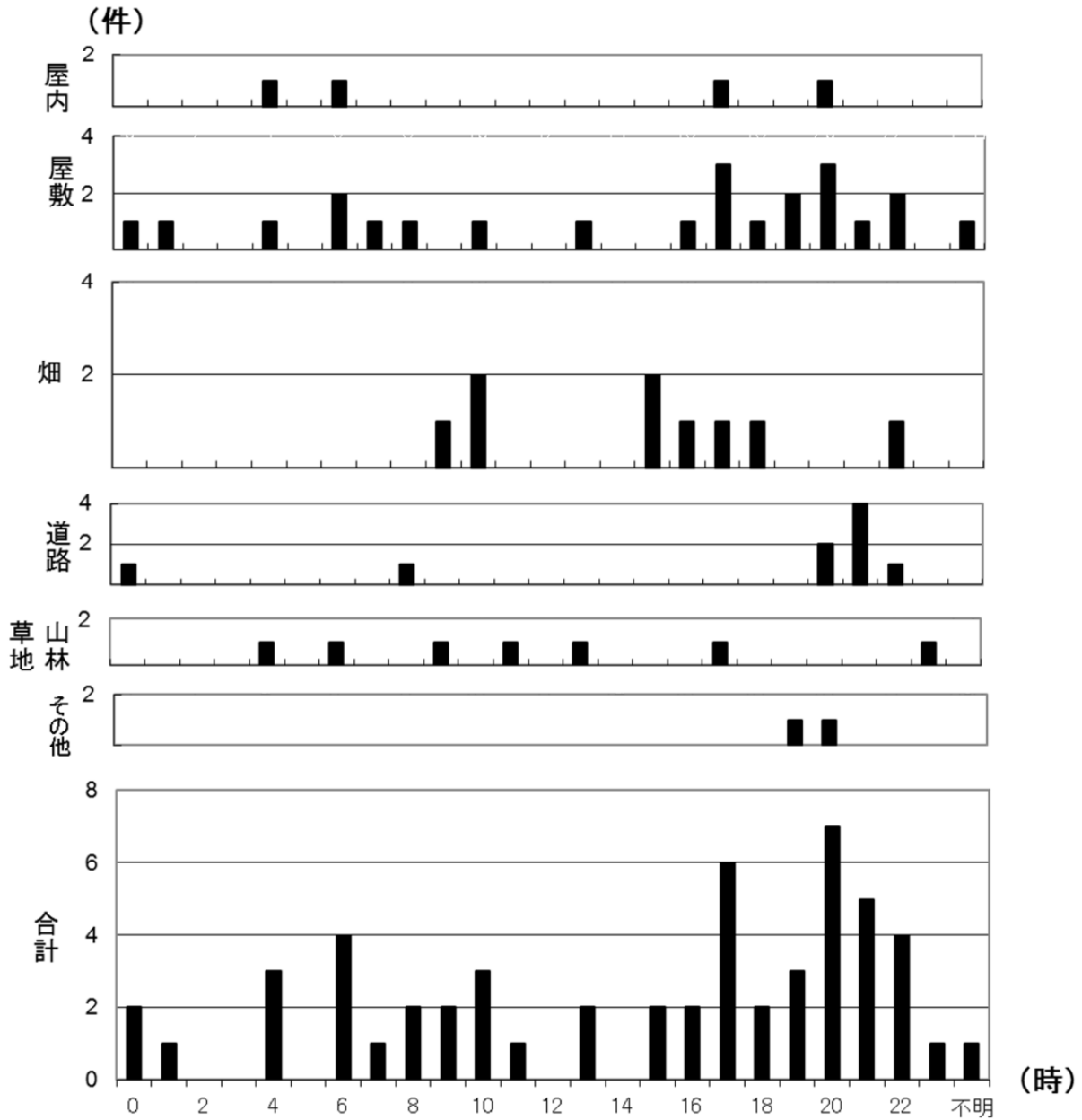


図-8 2014年時刻別場所別ハブ類咬症件数(4種計)

表-11 2014年 部位別ハブ類咬症件数

部位\種		ハブ	ヒメ ハブ	サキシマ ハブ	台湾 ハブ	計
上肢	指	6	4	3		13
	手	6	1	4		11
	前腕	1		1		2
	上腕	1				1
下肢	指	1	1	3		5
	足	6	1	6		13
	下腿	5		1		6
	大腿	2				2
頭部		1				1
躯幹						0
計		29	7	18	0	54

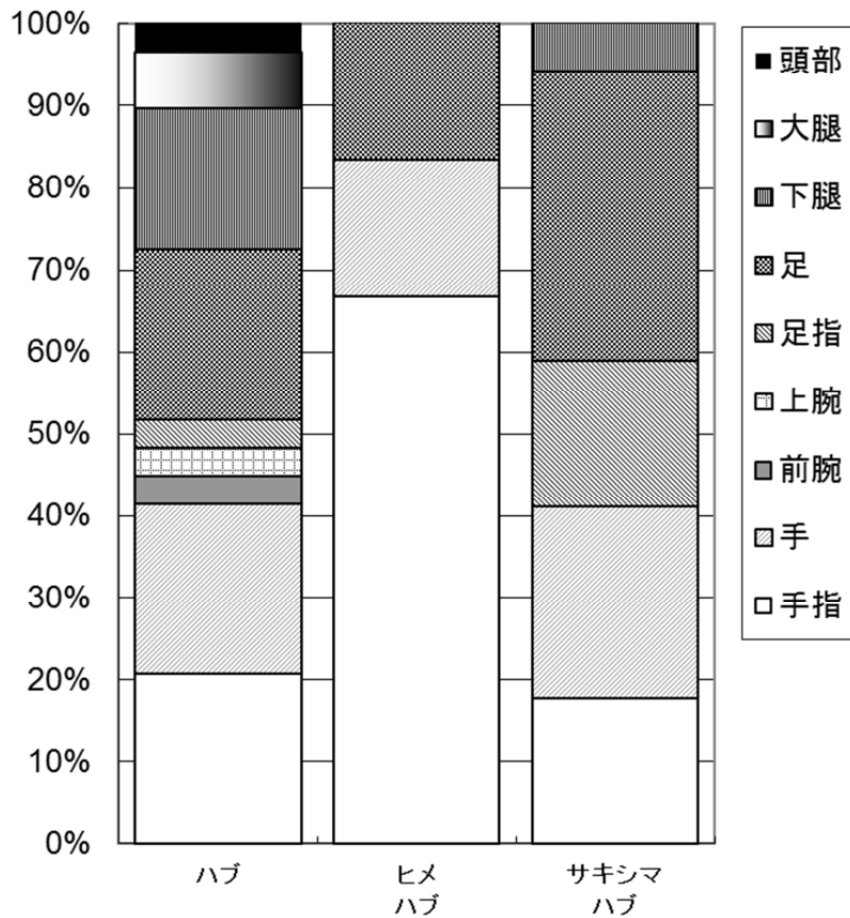


図-9 2014年部位別ハブ類咬症発生率

表-12 2014年 年代別ハブ類咬症件数

種類	年代	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	不明	計
ハブ	男	0	1	1	2	4	4	0	7	1	0	0	20
	女	2	0	1	0	1	1	2	1	1	0	0	9
	計	2	1	2	2	5	5	2	8	2	0	0	29
ヒメハブ	男	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4
	女	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
	計	0	1	1	0	1	2	2	0	0	0	0	7
サキシマ ハブ	男	0	1	3	3	3	3	1	0	0	0	0	14
	女	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4
	計	0	1	5	4	3	4	1	0	0	0	0	18
台湾 ハブ	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4種計	男	0	3	4	5	8	8	2	7	1	0	0	38
	女	2	0	4	1	1	3	3	1	1	0	0	16
	計	2	3	8	6	9	11	5	8	2	0	0	54

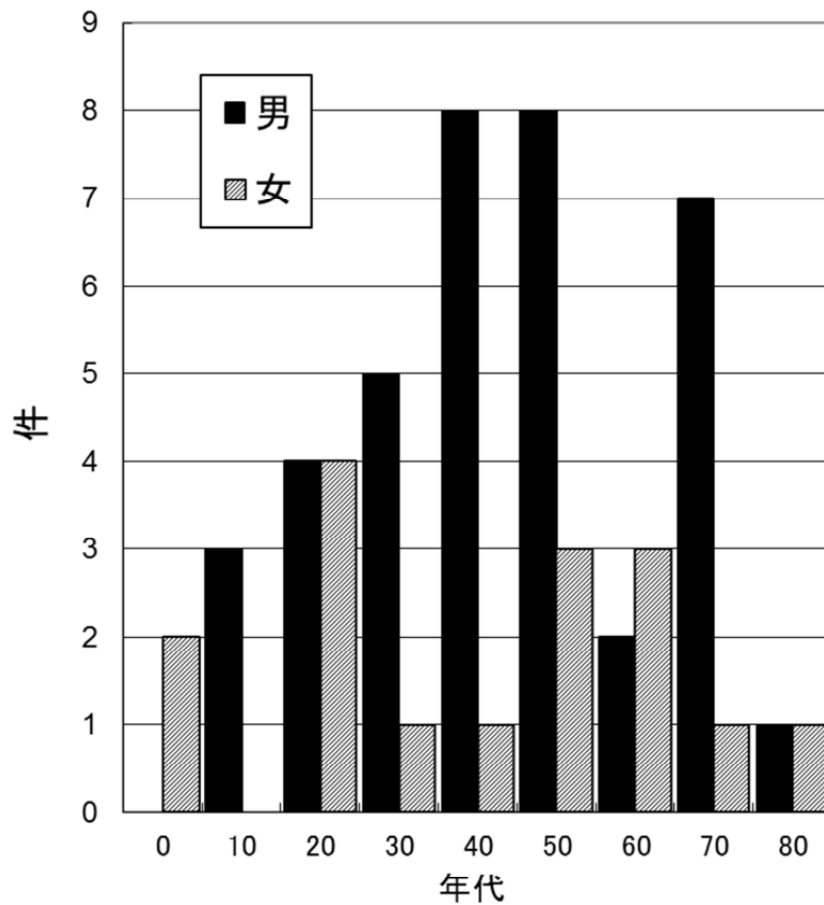


図-10 2014年年代別男女別咬症件数

ハブ咬症患者調査票

連絡先：沖縄県 衛生環境研究所ハブ研究棟

電話：098-946-6710

FAX：098-946-6711

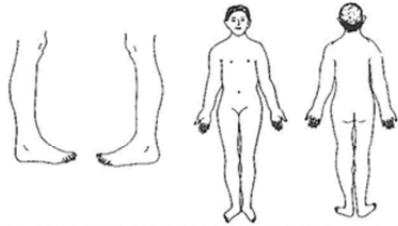
No. _____	
記入者名 _____	
I 病院名 _____	転院名 _____
II 患者名 _____ 年齢 _____ 才	1. 男 2. 女 生年月日(明・大・昭) _____ 年 月 日生
住所 _____ 市・町・村	番地 _____ 自宅電話番号 () _____
職業 _____	職場電話番号 () _____
III 受傷日 _____ 年 月 日	午前・午後 _____ 時 _____ 分
IV 受傷場所 _____ 市・町・村 _____ 番地	V 受傷動機
0. 不明	0. 不明
屋内 1. 居間・寝室・その他 ()	1. 就寝中 2. 室内におけるその他の活動 3. 用便中
2. 台所 3. 便所・風呂	4. 通行中
屋敷内 4. 庭 4. その他(畜舎・便所・車庫・鶏小屋)	5. キビ刈中 6. 農作業中 7. 草刈中
田畑 5. キビ畑 6. パイン畑 13. 水田	8. ハブ取扱中・採取中
7. その他の畑(イモ・野菜・不明)	9. その他 ()
道路 8. 農道 9. その他の道路(山道・部落内道路・不明)	VI 蛇の種類
原野 10. 原野・草地 11. 山・森林	ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ
12. その他(川・沼・池・海岸・墓地)	アカマタ・わからない
VII 受傷部位	
0. 不明 21. 頭部 25. 軀幹	
上 左 1. 左第 _____ 指 3. 左手 5. 左前腕 7. 左上腕	
肢 右 2. 右第 _____ 指 4. 右手 6. 右前腕 8. 右上腕	
下 左 11. 左足第 _____ 指 13. 左足 15. 左下腿 17. 左大腿	
肢 右 12. 右足第 _____ 指 14. 右足 16. 右下腿 18. 右大腿	
VIII 応急処置	X 局所症状
処置方法	1. 疼痛(+, -), 腫張(+, -), 出血(+, -)
A 1. 緊縛せず 2. 緊縛した 0. 不明	2. 牙痕数 ()
B 1. 吸引せず 2. 吸引した 0. 不明	3. 今回の受傷状況(被咬回数 1回 2回 3回)
C 1. 切開せず 2. 切開した 0. 不明	4. これまでに何回かまれたことがあるか(過去 _____ 回)
IX 受傷より血清治療までの時間	XI 血清について
0. 不明 1. 30分以内 2. 1時間以内	血清量 _____ ml
3. 2時間以内 4. 4時間以内 5. 4時間以上	注射法 0. 不明 1. 静脈注射 2. 局所注射(受傷部)
6. 血清治療せず	3. その他(受傷部以外の筋注など)
	4. 注射せず
XII 治療期間	
治療日数 0. 不明 1. 2~3日 2. 1週間 3. 2週間	
4. 1ヶ月 5. 2~3ヶ月 6. 3ヶ月以上	
入院日数 _____ 日	
XIII 予 後	
0. 不明 1. 完全治療・リハビリをした 2. 完全治療・リハビリをしない 5. 瘢痕形成	
7. 機能障害(含切断)リハビリをした 8. 機能障害(含切断)リハビリをしない	
10. 死亡(_____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時)	

図-11 ハブ咬症患者調査票